

DMS P/FU (DWIDP) JICA 便り

ネパール自然災害軽減支援プロジェクト・フォローアップ（水資源省治水砂防局）

No. 23 / 2006 . 7 . 26

日本での記録的な大雨による水害・土砂災害についてはここカトマンズでもNHKワールドなどで見ることが出来ます。ネパールにおいても、雨期に入り洪水・土砂災害が多発しており、特に15日未明に発生したネパール中部のカスキ（Kaski）郡における地すべりでは、死者行方不明者30名という甚大が被害が発生しています。7月20日までの1ヶ月間におけるこれら水に起因する災害によって、全国で6件以上、死者行方不明者33名以上、避難12棟以上が報道されています。現在、フォローアップ活動期間も残り1ヶ月となり、取りまとめに向け作業に追われているところです。



行方不明者の捜索をする国軍兵士とマオイスト(カトマンズポスト紙から)

国内情勢については、憲法制定会議選挙に向けて、暫定憲法・暫定政府の設置準備等が進められているところですが、政府とマオイストとの交渉が必ずしも円滑にいったいない状況となっています。暫定政府にマオイストが入る際の武器管理に関する政府とマオイスト側の見解の相違についての報道がなされており、また7月上旬に武器の管理とその監視について政府側から国連に出された依頼のレターについて、その内容が今年6月に成立した政府とマオイストの8項目の合意に反するのではとの指摘がなされています。アメリカ大使モリアティ氏による、1917年のロシアにおける「10月革命」と同じような動き（予定されていた憲法制定会議選挙の前に共和制に移行）がマオイストによってなされるのではとの発言などもあります。21日に予定されていた政党とマオ派のサミット会議が準備不足を理由に延期され、またコイラ首相の健康状態に不安があるなど、懸念材料が多く存在しています。この他、首都圏では警察等のコントロール能力が低下しているためか、強盗事件が頻発しているなど、治安状況の悪化が言われています。

我々専門家は安全に十分注意を払いつつ、ネパールの災害の軽減を図り、災害で苦しむ人々が少なくなることを願って活動をしていきたいと思えます。

マハカリ川の現地調査を実施しました

6月31日～7月2日の日程で、ネパール極西部のインド国境付近を流れるマハカリ川のモニタリング調査を実施しました。参加者は武士専門家、中川専門家、DWIDPのシン（Mr.Krishna Bahadur Singh）工事監督官、DWIDP第7事務所からパンデ（Mr.Chandra Dev Pandya）所長はじめエンジニア、工事監督官の方々です。



Dodhara Chandani 橋
(鋼製人道つり橋)

マハカリ川は DPTC 時代の洪水対策のモデルサイトであり、プロジェクトにおいて堤防工、護岸工など延長 13.3 km の工事を完成させ、プロジェクト終了後にはネパール政府予算により引き続き護岸工が施工され、延長計 18.2 km の区間が完成しています。モデルサイトのあるマヘンドラナガル周辺はマオイスト問題でこれまで JICA 関係者の立ち入りが制限されていたところで、堤防・護岸により保護されている集落ではマオ派エリアを示すと思われる赤い旗を多く見かけました。工事箇所はマハカリ川の西岸に飛び地のよう存在しているため、これまで一度インド領内に入り再度ネパール領である当地区に戻ってくる形でしたが、2 年前に長さ約 1.5 km の鋼製人道つり橋が出来てからはインド領に入らずに行けることになり、今回は片道約 20 分かけて橋を歩いて往復しました。

プロジェクトによって堤防・護岸・水制工が出来てからは顕著な洪水被害は発生していないとのことで、水制工のうちいくつかは破損しているものの、概ね効果を発揮していると思われました。昨年、水制・堤防が被災し堤内地に一部被害が発生した箇所においては、第 7 事務所の努力により応急復旧がなされていましたが、再度災害の防止のために必要な水制工等の設置法について議論・指導を行いました。また、ギャピオンの維持管理に関して、破損箇所の修理の重要性やその具体的手法について、中川専門家の経験を基にした指導などを実施しました。

今回、カトマンズからはネパールガンジまで空路で行き、そこからマヘンドラナガルまでの往復約 500 km をイーストウエストハイウェイ上を走行したため、ネパール西部の河川の様子を観察することが出来ました。



マハカリ川右岸堤防と水制工



ギャピオンの補修法を指導をする
中川専門家(第 7 事務所・ダンガディ)

主な出来事・トピック

NFAD 作文コンクールの表彰状の授与を行いました

2005 年度に実施した NGO 日本ネパール砂防技術交流会主催の作文コンクールの表彰式



受賞者(チャンピ校)

(賞状と賞品の授与)を実施しました。今年 4 月に予定していた表彰式ですが、その時期の国内情勢の悪化、それによる賞状印刷の遅れ、学校側の日程との調整などで今回、NFAD のメンバーが各学校に表彰状を持参し実施することとしたものです。6 月 26 日チャンピ校、7 月 12 日マタチルタ校、7 月 14 日にはテチョー校において賞状と賞品(マタチルタ、テチョー校においては賞品は 5 月に授与済)の授与を行いました。この

時期は全国一斉に実施された SLC (School Leaving Certificate ; 高校卒業資格試験。合格率約 40%。これに合格しないと大学に進学できず、また希望の大学学部等にいけるかどうかも SLC の順位に関係する。別名「鉄のドア」) の結果が発表されたばかりで、昨年当



桑の苗木を校長先生へ渡す
(テチョー校)

文コンクールに参加した当時の 10 年生(概ね 16 才)のうち、当コンクール入賞者はその多くが SLC に合格していました。

テチョー校においては、桑の苗木を配りました。これはコンクールに出展された作文の内容に、斜面などに木を植えよとのメッセージが多く書かれていたことから、実際に植える苗木があればと、配布したものです。他の 2 校にも配布する予定にしています。

フォローアップ活動を進めています

竹柵工等安価の材料による災害復旧工事を実施しました

スケッチ平面図が書けるようになってきた第四地方事務所 (DWIDP) の職員に、工事設計に使う事を目的に JICA 予算を当ててみました。工法は竹柵工、木工沈床工、竹杭工、竹粗朶目潰し暗渠工等安価な材料を使つての設計にし、柵工の階段部分には植生力を期待して、この雨季に桑の苗木を植える事にしました。これ等の工法の提案には職員からは戸惑いが在りましたが、現地踏査時に村やコミッティー等の民間にて簡易に施工している事実や耐久性も或る程度期待できる事を知り、試験的に施工する事と意見が一致しました。或る現場



左岸侵食を止める竹柵水制工

流心を約 30° 右岸へ

では竹柵水制工を中小洪水高の三割の高さにして施工したところ、左岸の河岸侵食が止まり右岸側の中州の減少が一洪水毎に起こり、村人から感謝されていると言う事になりました。毎年維持管理工事を起こして、この施設を保全する事の大切さを説明しています。

ヘイハチローの「ナマステ、ネパール」コーナー

(還暦を過ぎて、初めての海外、厳しい環境のネパールで技術協力・生活に取り組む「中川平八郎専門家」の「眼」で見た「ネパール」を紹介するコーナーです。)

7月の雨

乾燥期から雨季に入る。優しいのや激しく許してくれそうも無いのや色々な降り方のある雨です。この月の初旬の雨は降り始めて 2 ~ 3 時間で晴れ上がります。中旬になると其れまで夜中の雨でしたが、早朝と夕方そして夜中の日に三回の雨に変わっていくようです。

今年の雨季も例年の様では無いと言う話も聞こえます。それでも昨年感じたと同じ様に、草木は“今！”とばかりに、若芽を吹き出すかのように大空へ指し伸ばし始めます。早朝の鳥の鳴き声も“季節が変わるぞ！”と告げている様に聞こえます。この国では、生物と名の付く物はこの時とばかり繁茂し、人間も病気になり易くなります。寄生虫が元気になる時期でもあるのかも知れませんが。現場踏査に出ると、田植えの真っ最中で、村人総出で水田を飾ります。田植え歌や女性の高笑いが聞こえてきます。苗は日本の様に直線に植えてありません。ところせましと植えられてゆきます。雑草は道具で取れないし、どうするのか？今度来た時に見るのが楽しみです。朝の気温は28、湿度50%台と毎日変わらないのですが、中旬以降は涼しさを感じます。そしてよく寝ます。一年目の疲れか、少し慣れてきたからかと自嘲しています。体重は念願の60kg台に突入しました。



毎日通勤時に会える相当使い込んだサリーを着たオバちゃんや挨拶が交わされるようにしていました。いつもタタキの上に座っています。一瞬ですが“ナマステ！”の声に笑顔を乗せて頂きます。野良犬も雨は嫌いの様で道端の真ん中に寝そべってはいません。何処に行ったのかな？この街は人間と其の他の動物、牛や犬や山羊や鷺鳥や鶏や豚等（時には象さんも）と同じ土地を共有している様に見えます。犬は特に夜になると日中と異なり縄張りの確認をしているのかよく吠えますし、鳥は、朝方他の鳥とはチョット遅い目に起きて大声で泣き喚わめき始めます。其の内に陽が上り始めそして人間の音がし、その他の動物の声は消えていきます。“禿山の一晩”の叫びが治まり、一日が始まるわけです。

今月は、通訳のRosyan Shakya君が激しい頭痛になり10日間程休みました。人使いの荒い日本人と出会って、その様になったのかと少し心配でした。元気に復帰してきた時は安心しました。それで、今月、ネパール小話は聞けませんでした。

編集責任者：武士俊也、長期専門家：中川平八郎

電話：+977-1-5535502 Fax：同-5523528 E-mail：dmspfu@wlink.com.np URL：<http://www.dwidp.org>